



養心集
上

特別
~ 5
6058
1



入5
6058
1



續有破海序

公任乃大納言ハみやこゆらのさき
こむりくしうもれちりをさめく
ら—和隆朗詠集をさくして
序人の奥あつ情和圃を程方ゆり
き又人歌仙れ詩尋と集めたり

4841011



57-2523

くろくもそのところを詠詠を
えつ歌ともやあつていふ
さあ風雅と美しき出づり
芭蕉翁もおりのまわさるも
の記される白きなれし
とりこみたる集り
免れたる有徳のほ
らひきりわかれ
集り

集り授けし
蕉翁の流と名
ぬく所
ま直示
伊物
地
体
りの

元禄七年後乃五月不志東の詩
故を平向家乃折け叶難は乃之道
うまうりてんくさくちりー拾ふ。んを
終り一歌仙一巻今續々集乃冠や

落柿舎昂興

半ちう原村乃ささきやま月
青葉梅ささき。梅檀乃ん
一牧乃むしほよさるぬ押あひて
柄と小虎と梅とさし脇はし
つと影よ青しけ海風乃ん
堤ありて川田中乃道

之道

去来

芭蕉

唯焚

丈艸

まき

かゝる鳥の行原れは 葉

御舟は月よ十五盃有 之道

秋もや、今朝うさむさ合 惟焚

了んち鴨乃とやまて居る 野明

抱こそきおひるさかぬ身 ときろ

逢ぬほのく思ふたせ ときろ

あゝ乃志ぬりあゝの降もり 大草

紡草子もみぬを掃むとけき 惟死

極楽あしふき居ても頼んぬの 之道

一たりまぬあゝ信を掃ぬ 去来

乃とあゝ留乃岨の花さかり 史等

半一雙を雛子乃むの昭は 史考

猫舐乃あゝよゝゝゝす震 野明

塔乃乃ほかを清は 惟焚

賣るゝあゝ竹乃子ほの増むん 史考

茶とき乃雨乃めいり 隙 之道

紅

1871.11.11

蛇くゆ乃上下の尻乃乃カ 素

腰下カ 杖さす宿の氣はカ 芭蕉

わく芭月夕執乃ちりれカ 唯

ちくくもひりりカ 福々り 整

豹乃月起くカ 五六一六眼 之通

く別あカ りあカ 仕りカ 去来

蓬生よかりカ 乃くつく伏カ 芭蕉

加減をせカ 流清乃カ 桶 惟

切カ しくカ 膏アラ の下染カ 棧カ 今 整明

何カ とくカ くカ 若ぬカ 髪カ ゆカ 之道

吸物カ しカ 産カ 女カ 乃容カ をカ 去来

肥後乃相場カ をカ 去来

まカ んカ くカ ちカ のカ 花カ 乃カ のカ つカ 道カ のカ 去来

目カ くカ せカ 乃カ ちカ りカ 春カ 乃カ 風カ 野明

終カ 殿カ 乃カ のカ 前カ 乃カ のカ 目カ 乃カ のカ 目カ

須磨の浦一見乃時

芭蕉

浪戸古平吹ぬ笛さく木郎

け句多 湖南の文州 幾とせ袖底にお
ささく水 せけし我續集結縁
下しとて文通乃中 緘 送て
倚 されて心師の句諸邦の集よ
浅しきもとすく ちく程ちのさき月
のこらよその言葉さく 伊よよ
病りきく 茶采のそ 歎しよて
右子 寫しし追懐乃志 ありて

續有磯海

四季部 立

傷朗詠集上卷

立春

東武

花多にひまぬすよと也天有

杉風

水仙まあるよの一重やの明

伊賀

土芳

早春

終りしよ人の魚りも月夜

湖南

文州

掃りえて餘室もあまぬ二加賀万子

春風も塵もほゆる。氷る大津尼智月

春興

天の息ゆく猫乃志ん膳所正秀

揚つるし町くえんや。のほり津井波路健

きりり風りり。紙美濃海動

行脚 惟妙 千 ち

未乃余志きり。紙江戸嵐雪

芽のてまつまは。園イソキ稻叶 如行

ふりりつらま。紙カ牧童

五六洞羅わし。紙黒崎少年助童

駒のたぶら。紙京風圓

送惟妙子

生は八都乃志ん。紙東武の

餘室もあまぬ。紙張雲

葉乃志ん。紙江戸野坡

七くさやそふふあなねのきれ イ十三 夷全

三月三日

離仕よよ路乃かきちかき日 三 荊口

踏ものこぼし遊しやひまの客 京 范亭

桃

つ不ゆのまゝ盛とくもれ カ 北枝

うすい敷乃りもてまを桃の 僧 林紅

雞乃食鳴けやの柳久 イ十三 萩入

暮春

遊中庄の川の源是彈の心中より出

まを谷の岩洞をくまて漲る流と奔 箭

くまてしもちりらよ雄神の最祠有

庄川の庄の在所あるあまより花は

雄神川に流しぬ 史は集巻二

十四は俊頼の骨の河の暮春谷の一日

まを遊ひし茶あつ川の匂と標

真砂のひ葉の層のひるや雄神川 浪全

おつ川にわたる 史 春日入 呂風

鶯や龍くまほ。外のあめ 日田 朱拙

くくくさく甘味鳴も小雀 全 若芝

鶯のあまもく伊吹たけし カハリ 鶴背

くくくすや雪おれも カハ松 致昼

鶯の鳥く イ十三 夕朧

鶯 五中者破 路青

くくく イカ 良品

霞

雲原や枝も霞れ獲く 水園

美乎 五中高世 東白

鶯 林紅

耕作の毒 幽泉

梅

辭 水枝

あ カハ 八子

梅

浪毛

梅のさかひははるかにさきよのち さきよ 有

二月をたふさくはるかに梅のさき 京 中

雪のふりあはるかに梅のさき 日田 西六

雑多のさかひはるかに梅のさき 有破 海人

梅のさかひはるかに梅のさき 有破 路健

梅のさかひはるかに梅のさき 有破 梅素

あまのさかひはるかに梅のさき

山石屋の上は風も洞のさき

梅のさかひはるかに梅のさき

梅のさかひはるかに梅のさき

こまのさかひはるかに梅のさき 風水

陳簡齋のさかひはるかに梅のさき

今章のさかひはるかに梅のさき

讀す

化粧のさかひはるかに梅のさき 書根 詩六

紅梅

梅のさかひはるかに梅のさき 路健

おま女乃一箇乃譜

くくすよ雲ののちや梅のむ 浪化

柳

白鷺乃雨よくれゆく柳えん 飄行

雨さ九あふを柳のんくーん イヤ 支房

仕るくうの邪うまぢつたる柳州 嵐青

くくくの中くくくく柳州 浪化

くくくく柳くくくく柳州 高甲 十丈

くくくくくの階のあふ柳州 イカ 素芝

花

花よくくく瑞用をくくく 野坡

まよくく道くくくあのおくくく 伊賀 風麦

まよくくく花えやゆす留法くく 卓感

く月の客乃くくくあや花さたり 大舟

くあさくくく酒賣のあ。あま山ま 秋之坊

と行

群いづはるきのりのらや花の敷 林紅

そのあらはの目和もすくし花の 楚舟

ゆきぬとや花の思たん雨まな ぬ枝

ふくまるいままの海の花んか 江鬼

有ゆゆけの様を乃まるから後 向空

お鳥の輪よしももたちら後 大牛

あらははあらいもまる様の 橋本

流りくといまさら後ん 一洞

遊東福寺化縁場

簾はもからんもちな花 風玉

依暮のいまや花のく 浪化

まちちりいままら馬の上 万子

小石瀬や花のいま 志来

陽をや鈴白くくく毛の中 史邦

花もののいまらいま 志来

落茶

ちりちりのききかきかき日の遠 セ、 游刃

あまのこころのこころのこころのこころ セ、 露川

ちりちりちりちりちりちりちり オハリ、 夕花

ちりちりちりちりちりちりちり オハリ、 露川

躑躅

根きくもももももももももも セ、 秋花

土を歩くもももももももももも 此葉芳

子母

ちりちりちりちりちりちりちり セ、 茶葉

ちりちりちりちりちりちりちり セ、 秋人

ちりちりちりちりちりちりちり セ、 野角

天満宮の御旗

ちりちりちりちりちりちりちり セ、 風四

藤

ちりちりちりちりちりちりちり セ、 柳花

物音のちりちりちりちりちり セ、 利合

夏降し鳥あらしはし 常盤外 ブニコ珍珠 頭水

胡麻がくちりくちり下や 花 長崎 大竹

お梅らの 積 お梅 卯七

へ

天更え

馬の 娘もろこや 更え ぶき

あらしを流したるすや 更え 呂風

首更

呂風

卯の花や田舎の お花 壁地

卯乃を お乃 藤人

杜 いす 和久

結井 いす 小枝

青雲や いす 風

拓 いす 探

卯月 いす 温故

春の月明神の神より

青麦の神興ノ々々々々ノ 為有

々々々々ノ二葉也 麦れ株ノ 志果

夏夜

緑おやノ糸屑ノ々々々ノ洗濯場 路健

麦の起ノ河下ノ葉ノ嫩ノ脈 卯七

山中ノ以ノ舞ノ々々々ノ井ノはノの

山下ノ々々々ノ々々ノ々々ノ入ノてノ々々ノ体ノ也

々々々ノ々々ノ々々ノ々々ノ々々ノ唯施

端午

麦未進ノ乃ノあノめノんノほノんノ場ノ々々ノ 林教

ゆノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ 一村

中川ノやノ軒ノれノ葛ノ蒲ノのノ々ノ加ノ破ノ 可又

納涼

々々ノ涼ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ 猿ノ籠

赤ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ 全 万平

死ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ々ノ 路健

月涼 森下 井之邊 松原 史全

涼風 也里乃湯 少屋乃雪 松原 長崎 素伸

松山 色治 小石乃雪 野原 呂風

下乃ほり 二階乃くまの涼 林紅

す、一と鳥 獨月乃あゝ 野原

千貫乃涼 小あり 松の月 風四

あゝ 藤乃あり 小あり 吹く 史全

晩る

一縷の雲 何より 山 史全 三 遊樂

月 顔より 月のあまの 史全 蔭人

大名乃とまの ほうりて 史全 梅素

唯あつ 一窓のまの 史全 史邦

あつ 小石乃 史全 向空

夕まのら 小あり 史全 桃雨

夕まのら 小あり 史全 小枝

水うへ 小あり 史全 史全 大 史全

いふもろくも根く吹ぬくあはれ 十文

白雨す 燐氣をちりくはる根 カ 魚群

夕立や 鈴鹿入り坂のほり カ 七里

山路すく

神鳴やいりくち輝く煙より 如行

草子川の草よむさき 翠眉 カ 正秀

茶橋

橋すく、及くくみすや 蝶鳥鳴 フナリ 浪今

唐家やあまらとま入る花 カ 牧童

蓮

蓮池やのちのま花乃さくちあ カ 嵐青

あつと田くく。唐家や蓮乃花 カ 林叙

郭云

一多の八関乃つむしや郭云 カ 去来

郭云 峯の筋の小ゆのあ カ 且醉

郭云 入生ああるのあ カ 泥芥

中ほしきと志して夜多のあ カ 楚舟

半支鳴く年一みちきるや子規 方草 牡斗

子規田中一の義や足くま 猿 猿

蜀鬼一ちあうは一牧田 浪 浪

時をたもておこしや同のせ 氷 氷

嶺 嶺の宿へ

猪追の夜入の義く子規 丈 丈

郭に義くみくははら 見 見

子規鳴や田一への義の上 詩 詩

野一人々へのせのや杜鵑 李 李

堂

草も木も堂くさや水のみ 正 正

飛ほするあるとある 林 林

白く冷くまきしは 荒 荒

落汁一乃流ま 北 北

つくちりし中 四 四

外義 千 千

とち合ふ井と海に筋の堂外 嵐青
堂外やりけし出むる里の門 イカ 祐甫

蟬

添彩ももも子整るや蟬の 声 有
桐乃才乃好もよさのちや蟬の 声 秋人
旅多し子明やまよる蟬の 声 胡仲

扇

二本目に扇をたなす 暑有さ哉 嵐青

都へ入る扇よのたる 納代か

都へ入る扇よのたる 納代か 許六

秋

立秋

あそびのや鷹のとや毛のし ら 浪心
年とちよせんツアんとぬたや秋の 入 尚青

早秋

帷子と夏もあけいさの秋の風 野坡

身はよほはる牧屋のさうや秋のミナ蓬山

日乃うちきりくわし日者ナカ柳 牧童

伯樂や馬もあはれしちる柳 巨風

ホノあふひふカ鹿空よりせの白外カ 魚程

早稲刈や峯入もせぬ小山休ヒサ 朱迪

初秋やくつろきかゝる稲の中 路健

或人の彩巻イカんあゝ

瓢箪イカ乃ん尻イカとすはひも秋年月 雪之

七ノム

田云あゝを團扇よイカさん物イカ 風を

堀イカよすもイカ熱イカしイカかイカてイカ亦イカ川 其角

旅牧屋乃釣イカもイカつイカてイカすイカやイカのイカ 卯七

セクヤはる梅イカのイカりイカるイカし

去乃イカもイカや田畑イカたるイカるイカ東家イカ 小枝

セクヤイカはイカるイカあイカるイカあイカるイカ物 浪全

秋興

お稽の場イカやあイカるイカるイカ小枝イカ秋風 詩六

結實有上

襟孔乃内股くゝのすものおれ と三子 木乃守

分別くゝのすものおれ ツバシ 東推

とさくちのすものおれ ツバシ 少校

遠列ノ一

京乃くゝのすものおれ 史部

京乃くゝのすものおれ 一村

あゝとのおれのすものおれ 昌 狗彦

殿乃や沙鼓乃くゝのすものおれ ツバシ 眼心

秋暁

舟乃くゝのすものおれ 利牛

いづく乃合点乃くゝのすものおれ 秋之坊

長床小懸乃くゝのすものおれ 斜嶺

日乃くゝのすものおれ 正秀

秋夜

おある乃くゝのすものおれ 去来

荷乃くゝのすものおれ 林叙

釣鍋乃くゝのすものおれ 京 呂物

うひくろく本あつる早あつるおの音

大坂

虎道

八月十五日

けんきふあわやりの月

智月

名月やかろす羽いろは海の上

尖秀

名月乃こさい鳴や秋の虫

イカ 風麦

名月や瀬をちるくし雲の影

秋人

名月の思ひ交や一箇の雲

路健

名月しはまつこのまも月ん外

江戸 利合

ひふるめくろくしはるながりの月

ミナ 大虚

子乃刻 袴を休む

お守方あらの月にし月ん外

遊糸

竹切し夜させぬくく

ミノめキ 羅秋

飼鳩乃軒よ首むす月ん外

野朋

誰しきく夜まゐのあんとあけ

羽刻 鶴正 素翠

名月乃あつるおのちのつま

林紅

名月や数とくけくむ葡萄の

胡仲

若月より陸より船のくまなりを 吏全

象瀉アキシ

の月や稀つゝ舟乃跡を押ス 吳柳

生けりし余のわが月ガ 夕紀

合ハ乃跡追ぬて行月アキ 野坡

月

二日月の秋を運ぬや州の上 夙國

月代や雀こ井つく義の中 回虎

くも鷺乃安や志乃小骨朝 素伸 長ガキ

み洋や舞乃まの路の月 徹房 セ、

後乃に又まのさく月此門 万子

市の氣もひれす。月の若は 朱杜

九日

く小の日や品ハあまの標 昌房 藤所

葉乃香や何りまのつ小豆 挑妖 カハカ

山崎 三

兼

飛鳴く月とあはれ兼のつば

出芳

桐欲よ兼のさつちや肉仁

嵐青

暮るは兼の志まわらうりか

残香

ゆゑえり行の志さち兼披露

江芦

鼓ぬく兼乃ほひやるり

蘭冰

いりえまよらん兼のちえ

毛純

九月盡

五防田ハ兼のつらす九月盡

諷竹

粟乃穂乃枕あはれ兼の林

路健

女師花

松葉屋兼のまどし兼の地

昌風

照つゝる風のやまやめり

蕨人

兼

鬼つゝる兼ぬり兼のま

絹月

兼と秋同士赤り兼のま

荆花

秋之林よついでに人をもて秋の林（ミ） 文鳥

うらうらや秋のささげを秋の（ミ） 東推

只のよもはなをあやめ秋の待（ミ） 路推

蘭

宿直を待りて

夜用とてをさむる如く秋の海（ミ） 千川

檜

蘇乃花やあひる雨乃後 浪全

朝うほやえぬまに海川の空 秋人

あさうほと深きまゝもや明（カ） 長緒

前栽

うらうらのほかにあはれも秋の菊（ミ） 文浪

うら枯やよほりすこほをよほれ垣 小枝

堀際へつゝえりけし秋の本枝（ミ） 秋人

紅葉

いづこの子の髪はまじりや薄ぬ花升カ 可南女

いぢりあるまじり染るるに花三 四野

いぢり花はまじりや谷の敷軒三 千川

五六河草はまじりや花は鏡花 水札

鷹

初一のひーさしつらまの目 野紅

初一のさしつらまの井波 長風

下りのさしつらまの井波 波酒

雞頭乃ゆ。くや雁乃あ山留 浪全

虫

虫むしと馴るるまじりや卓 卓儀

種二麻を鳴くまじりや三珠 燕入

夕露や何やまじりぬ中三珠 長洲

踏踏はまじりまじりや全 慎女

草一葉はまじりまじり目 紫道

かまきりや花はまじりまじり十丈 十丈

鹿

鹿小屋乃夕よさむくや菴の

丈冊

ま風年つまきやうり鹿の

晶

着せ

目よめる物ちまき瀨よ鹿の声

四睡

露

道ちのや薄乃露乃くけり

夕紙

物つゆのさきさきと梅の

有改

拾貝

霧雨の霧子

歌

霧雨や尾髪もぬす駒乃旅

詩六

馬宿よすそ湯りのすや霧も

浪全

山中温泉の上薬師寺清く

くすくすや白鷺眠る湯の

小枝

持衣

猿引ハ猿の小袖をきぬ外

芭蕉

山はとももよ更け砧の

林紅

夜もすくく病馬の伽の砧

オハリ

左次



冬

初冬 初冬 初冬 初冬 初冬 初冬 初冬 初冬 初冬 初冬

官守り 俵よつとる 庭 正秀

搔多んて 押おす 垣の木の葉 林紅

ささひや 何もない 野乃初 猿 雖

海乃骨を さんす 福くれ 游力

一白 舟は ぬぼる 路健

しまむ 程 野角

ささき かの 穀 桑拓

揮塵 乃身 若サマ

昔 坪末 詩六

後乃 在乃 訶竹

中く 乃 野坡

俱利伽羅 乃 下

体 乃 嵐青

ひつち 田も 卯サ



山姫乃脇きく抱えし仍後上并 柱山
 耳は似多き久乃接姫のまきカ 和風
 生酒さよふち付く平岡 李由
 浅は乃重石よあくや京 吾仲
 水伝乃びくくやカ 宇路
 水伝の香平かあぬやカ 風必
 心いそまると越て門人カ 菟人
 父と夜

有明平さむく宿直の葛籠カ 荊々
 有明中ぬりむカ 去来
 鈴もの物をぬまカ 嵐青

止歳暮

此節季作カ 土芳
 せこそるもむカ 小枝
 土賣鴨の毛もカ 浪介
 比とやカ 沙明

山崎

黒崎

水

このれまゝにけるく例みなる イナミ 其繼

捕の思案もほりやと年の暮 江戸 利牛

爐火

埋火や障子より来るおの影 浪全

脇さし一歩し宵中よあそぬゆ燈 出 万手

以燈をあそぬゆとまの外 出 四睡

病中吟

成病も一人あまゝる火燈 出 去来

くつろきの次乃を燈やら イカ 鳥沢

燈乃火やぬへれ色も イカ 探芝

霜

老師の酒とさきめし

福和相や勝も乃ちよ酒の向 史邦

幻住菴頼廢乃跡 一

雨相原や定乃付多 一 文系

水

三三三

三三三

太宰府より出て一舎あり

一舎あり

筑前博多

彼よ本乃時分そよまらぬ霜乃中 万袋

朝霜や火乃氣も入えず町並 李水

狐火の穴よりひらひらす葉おる 畔路

初霜乃下りてくつらく目初る 一草

雪

去年の雪と十日とたつらん 風園

初雪乃市よりくもや雛子免 正秀

初雪乃と初はくくれす岩井鼻 可南

初雪やうよ山茶花も破され 橋木

旅行

雪のゆきは元々際多の地なり 夕飛

魚店より鮫乃残るや雪の川 呂風

岨道は唐とくろや雪の朝 田虎

雪の乃おや障子の紙のたむき 三蓬

園の雪や波よく流るる乃雪 野明

身をたづねての雪も雪れは雪か 水礼

鶴雪乃田もくくも雪の中 嵐音

雪もやめまきや枝打門 荻人

川を子を呼ぶ雪のく川 野童

奥列南部くく川あり

厨川乃そくく雪も雪もな 唯然

せめせく雪も雪も雪も雪も 玄素

雪月々々々々々々々々々々 玄素

水

滝もやゆゆゆゆゆゆゆゆ 其角

解氷ほゆゆゆゆゆゆゆゆ 仙化

右乃白の枝々々々々々々々々々 雪のえ
一入集まゆゆ武江乃文通ゆゆゆゆ

雪雪乃ゆゆゆゆゆゆゆゆ 雪芝

一たゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 林和

森山乃〜〜おるを要ふ

路健

佛名

佛名や寺敷ほむる翠山庵の

許六

佛名や屏風〜〜

浪介

少僧外

續有政海上卷終

